

食卓彩菜

「この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございますお礼です。

お客さま方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、ひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のがきなどで、ご意見やご感想等何なりとお寄せくださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。



「花巻ブルー」

「ペッコ」は「ちよっと、又は小さい」、「おやすめんせ」は「お休み下さい、又は休んでいって（寄っていい）、おやすみなさい」と言う意味の花巻弁です。題字は「ちよっと、ここで休んでいって〜」という意味です。

いつも食べ物をご紹介しておりますが、今回は、梅雨のうとうとさを払ってくれるような爽やかな花々を、ご紹介させていただきます。

J A（農業協同組合）いわて花巻では、初春から晩秋にかけて管内で生産されている青色系統の花を、「花巻ブルー」と名付け、産地のアピールをしています。「花巻ブルー」は、地域の農業技術の向上に尽力した花巻生まれの作家・宮沢賢治の作品に、「青色（ブルー）」が印象的に使われていることや、花巻の風景を美しくしてくれていることから名付けられました。

4月〜5月は、「クレマチス」・一重咲き・八重咲き・万重咲き等バリエーションが多く、二千種を超える品種があります。

4月〜6月は「カンパニユラ」・ツリガネソウとも呼ばれ、釣鐘の形をした可愛い花が咲きます。

青のほか、白・ピンク・紫など花色も豊富です。私は、この花の名前を聞くと、宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」の主人公シヨバンの友達「カンパネラ」を思い出します。諸説ありますが、16歳で亡くなった親友と登った南昌山（なんしょうざん）を「釣鐘山（つりがねやま）」と呼んでいたこともあり、この親友が「カンパネラ」のモデルではないかと言う研究者もいるようです（最愛の妹トシガモデルという説も）。

7月〜10月は「リンドウ（切り花）」、8月〜10月は「鉢植リンドウ」。「銀河鉄道の夜」のカンパネラが車窓から見えた風景に「ああ、りんどうの花が咲いている。」と叫んだリンドウは、岩手が生産量日本一を誇っており、切花リンドウはお盆時期が最盛期。「銀河鉄道の夜」をイメージした鉢植リンドウの「花巻銀河ブルー」は、J Aいわて花巻のオリジナル品種で、2016年の国内のコンテストで輝かしい成績を収めており、濃い青色の大きく開く花が特長です。

その花の咲く時期にお届けする頒布会など、通販でもご購入できるようです。青色のお花をお部屋に置いて、少しでも梅雨の時期を、爽やかに過ごせるようにしてみたいかがでしょう。



今年で5年 SL 銀河 JR 東日本 釜石線

花巻だより

平成26年4月に復興支援と地域活性化、東北の旅に新たな魅力を！とデビューした蒸気機関車「SL 銀河」も、今年で5年目を迎えました。作家・宮沢賢治の童話、「銀河鉄道の夜」の舞台となった釜石線（花巻駅～釜石駅間）を、期間限定（4～9月）で運行しています。青のグラデーションになっている客車の外装は「夜が

明け、朝へと変わりゆく空」を表し、「銀河鉄道の夜」に登場する星座や動物が描かれ、星空に飛び立っている童話の世界観が表現されています。宮沢賢治が生きた大正から昭和を表現した内装は、ノスタルジックな空間となっております。田園風景の中、90.2 kmを約4時間かけてゆっくりと移動する旅は、あわただしい日常を忘れさせ、穏やかなひと時を満喫させてくれると思います。運行日は指定されており、全席指定となります。指定券は、乗車日の1ヶ月前から販売していますので、お早めにお求めになることをお勧めします。私の自宅近くの陸橋では、「SL 銀河」の雄姿を収めようとカメラを向けている方々もよく見かけますよ。

今年の4月21日の花巻駅での出発式には、上記の記事でご紹介した「花巻ブルー」が会場を彩りました。また、運行期間中はご乗車頂いた方に抽選で「花巻ブルー」の鉢植えや花束などのプレゼントもあるようです。見て、乗って、花巻の青色を楽しんでみませんか？